

ヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャの思い受け継ぎ世界へ 世界青年のつどい成功めざす全国交流ニュース

[2006年6月21日 No.9]

発行: 第2回世界青年のつどい準備委員会 電話03 5842 6035 FAX03 5842 6033
URL http://www.geocities.jp/youth_against_nukes/index_jp.html Eメール youth_against_nukes@yahoo.co.jp

「ピーチャリ」で120キロ反核自転車リレー、被爆体験も聞く 石川

被爆者、原爆症認定訴訟の原告を励ますメッセージにご協力ください。

石川民医連が反核平和自転車リレー

石川「ラブ&ピース」元気の青年たちのかけ声が輪島診療所前に響きました。



石川民医連反核平和自転車リレー「ピーチャリ」は、職員や共同組織だけではなく、医学生や看護学生も参加する約50人の平和企画です。

昨年、原水爆禁止世界大会参加者の有志が「平和な世界を手にする運動に、本気でとりくみたい」と、北海道の仲間らに習って実行委員会を立ち上げました。

2回目となる今年は、1泊2日で輪島市～金沢市の約120キロの距離を自転車でリレー、タスキをつなぎました。

その中で、北海道在住の被爆者から「被爆体験」も聞きました。妊娠中絶を決断した経緯や、原爆後遺症で今もなお苦しめられているなど、参加者は「二度と戦争を繰り返してはならない」、「被爆体験を私たちが語り継いでいきたい」と、決意を新たにしました。その想いをメッセージカードに記して、被爆者に贈りました。

「平和を考えるよい機会になった」、「少しでも行動できたことが自信になった」、「また来年も参加したい」という感想が、実行委員の自信につながっています。

「ピーチャリ」は、平和について考えるきっかけづくりとして、気軽に楽しく参加できる企画です。もっと多くの仲間に参加を呼びかけ、この輪を広げていきたいと考えています。

ピーチャリ実行委員長 山岸美緒子(『民医連新聞』より転載)

被爆者支える手紙書きたい

大阪原爆症認定近畿集団訴訟の支援や、被爆者訪問を行ってきた大阪の学生森田浩司さんが、先日近畿原爆症認定裁判原告のひとり木村民子さんの被爆体験を聞いて被爆者や裁判をたたかう原告を支えるためのメッセージを集めています。以下、森田さんの呼びかけ文を紹介します。

僕は木村さんの体験談を聞いて国への怒りが改めてわいてきました。どれだけ辛かったのか、どれだけ苦しかったのか。被爆者の平均年齢は73歳です。被爆者には、被爆70年目はないとまで言われています。今、戦争を知らない子どもたちが増えていっています。被爆者の人の思いを知っていくとともにその思いを次世代伝える義務があると思います。

人間一人の力は小さいものですが、10人100人1000人1万人と、諦めず頑張ることが大事ということを僕は、被爆者の方から教えられました。僕は一人でも多くの人に被爆体験を知ってもらうために伝えていきたいと思います。

そこで、木村さんや原告の方を励ますために多くの人からメッセージを集めたいと思います。ぜひ、協力して下さい。メッセージを送ってくればコピーします。ぜひ多くの人から集めたいのでよろしくお願いします。

peace-is-every-thing@ezweb.ne.jp